



2018年11月5日

第4回神戸大学極域協力研究センター(PCRC)国際シンポジウム

北極資源開発の持続可能性と国際法

International Law for Sustainability in Arctic Resource Development

日 時：2018年12月17日（月）～18日（火）

場 所：[神戸大学六甲台第1キャンパス 社会科学系フロンティア館](#)

言 語：英語（同時通訳はありません）

参加登録：[事前参加登録](#)をお願いします（12月3日まで）。

< <http://www.research.kobe-u.ac.jp/gsics-pcrc/sympo/2018-4th-sympo/program.html> >

参加費：無料（※昼食・懇親会費は別途お支払い頂きます。）

定 員：90名（※定員になり次第、締め切らせていただきます。）

趣 旨：

海水減退に象徴される北極域での環境変化は、他方で北極海航路の利活用、資源開発をはじめとする経済的・商業的機会の増大をも意味します。北極域では、すでに石油・天然ガス・その他鉱物資源の開発が進んでおり、北極鉱物資源開発の課題はどのようにその持続可能性を確保するかに移っています。本シンポジウムは、気候変動の影響に晒され環境的に極めて脆弱で、且つ、先住民を含む約400万人の住民の社会経済基盤と密着した特別な地域としての北極域における鉱物資源開発につき、国連持続可能な開発目標(SDGs)の基本理念である持続可能性(sustainability)と経済・環境・社会面の統合(integration)をキーワードにしながら、具体的な事例として、グリーンランドとロシア連邦ヤマル地方の資源開発を題材として、ルールに基づく北極鉱物資源開発のガバナンスのあり方につき議論をします。

プログラム(11月5日現在)
北極資源開発の持続可能性と国際法
経済・社会・環境・科学的側面の統合をめざして

International Law for Sustainability in Arctic Resource Development:
Integration of economic, social, environmental and scientific dimensions

9:00- 登録開始

12月17日(月) 開会 9:30-10:30

趣旨説明：柴田明穂（神戸大学極域協力研究センター長）

「統合原理としての持続可能性：理論的枠組の提案」

基調講演：Freddy Svane（駐日デンマーク王国大使）

「将来像の提示：冷めたい氷を緑に変えるには」

第1セッション：資源開発における持続可能性：具体的事例としてのグリーンランド (11:00-13:00)

基調講演：Rachael Lorna Johnston（グリーンランド大学北極石油ガス研究センター長）

「グリーンランドにおける天然資源ガバナンスにおける国際法の影響」

パネリスト：

Tukumminguaq Nykjaer Olsen（グリーンランド・イヌイット極域評議会特別補佐）

「未定」

杉山 慎（北海道大学低温科学研究所教授）

「グリーンランドにおける自然環境変化とその人間社会への影響」

高橋美野梨（北海道大学北極域研究センター助教）

「鉱物資源開発から得られる富を如何に享受するか：グリーンランドにおける持続可能性の政治学」

昼 食/大学内ガイドツアー(13:00-15:30)

第2セッション：人間及び社会の観点から見た持続可能性 (15:30-17:30)

基調講演：Peter Hough（イギリス・ミドルセックス大学准教授）

「自らの持続性確保、北極そして世界：イヌイットと持続可能性及び先住民権利をめぐる世界的議論」

パネリスト：

Dorothée Cambou（フィンランド・ヘルシンキ大学研究員）

「天然資源に対する永久的主権の限界：グリーンランドの鉱物資源開発権と先住民権利に対する義務の調和」

Yu Long（中国・上海交通大学凱原法学院博士課程）

「契約としてのFPICルールの実施：グリーンランドとカナダの鉱物資源プロジェクトの比較研究」

シンポジウム・レセプション/懇親会 (18:00-20:00)

9:00- 二日目登録開始

第3セッション：経済/ビジネスの観点から見た持続可能性 (9:30-12:00)

基調講演：Bruce Harland（北極経済評議会・責任ある資源開発作業部会共同議長、Cowley Maritime Corp副社長）

「北極経済評議会：北極におけるビジネス開拓のリソース」

基調講演：原田大輔（(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構(JOGMEC)調査課（ロシア CIS 担当）課長）

「ロシアにおける北極石油・天然ガス開発の最近の加速化：その潜在性・現行プロジェクト・課題（ヤマル LNG と Arctic LNG-2 に焦点をあてて）」



パネリスト：

小林友彦 (小樽商科大学教授)

「環境的害ある補助金規制を通した北極域における持続可能な資源開発：WTOにおける補助金規則交渉の経験」

Kong Soon Lim (マレーシア Dorairaj, Low & Teh 法律事務所)

「国際投資法と北極法：北極投資レジームを目指して」

Egill Thor Nielsson (中国北欧北極研究センター事務局長)

「中国と北欧の北極関係：非生物天然資源開発の文脈での政策・産業・科学の交差点」

昼 食 (12:00 – 13:30)

第4セッション：環境及び科学の観点から見た持続可能性 (13:30-15:30)

基調講演：**木村ひとみ** (大妻女子大学准教授)

「北極のための国際環境法の役割とグリーンランドとヤマル地方の国内環境法」

パネリスト：

大河内美香 (東京海洋大学准教授)

「北極における石油・天然ガスの持続可能な開発のための安全管理制度の確立：ヤマル半島の事例」

Joëlle C. Klein & Romain F.R. Chuffart (フィンランド・ラップランド大学北極センター研究員/博士課程)

「北極における持続可能な開発に向けた環境影響評価の調和」

Daria Shvets (スペイン・ポンペウファ布拉大学博士課程)

「北極における海底ケーブル設置の自由と鉱物開発：持続可能性を通じた競合する活動の均衡」

最終セッション：国際法の役割の再検討 (16:00-17:30)

基調講演：**Nigel Bankes** (カナダ・カルガリー大学教授)

「自国領域内における国家の天然資源開発を国際法はどう制約することができるのか」

パネリスト：

大西富士夫 (北海道大学・北極域研究センター准教授)

「持続可能性、政治、そして国際法：国際関係論からの視点」